

漏斗胸で悩まれている方へ

姫路赤十字病院 小児外科

* 漏斗胸(ロート胸)とは

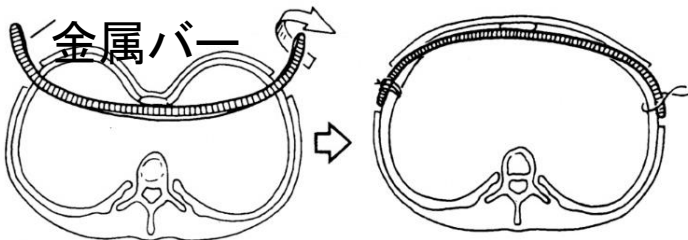
漏斗胸とは、胸骨(胸の前の骨)とそこにつながる肋骨が背側に陥凹している状態を言います。原因は、今のところはっきりと分かっていません。

中には、陥凹した胸骨が心臓を圧迫するために、不整脈や運動時の息切れを訴えることがあります。しかし、そのような症状がなくても、自分の胸の形を非常気にされ、つらい思いをされているお子様も多くおられます。基本的に美容目的になりますが治療することが可能です。

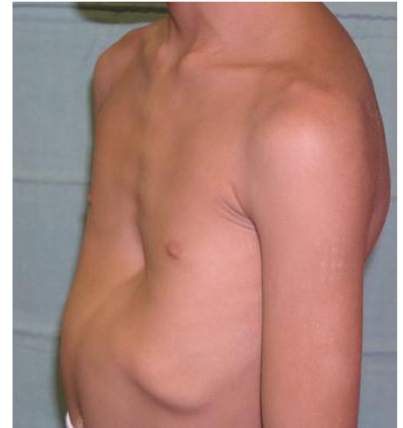
* 治療 (胸腔鏡下胸骨挙上術(Nuss手術))

当院で行なっている治療は、金属バーを挿入して胸骨を挙上するNuss手術を行っています。Nuss手術とは、両側の胸部に2~3cmの切開を入れ、体格にあわせて曲げたチタン製のバーを胸骨の裏に挿入し、そのバーを回転させることによって胸骨を持ち上げるというものです。金属バー挿入の際、胸腔鏡というカメラを胸に挿入し安全を確認しながら行います。金属バーは約2~3年間留置し、その後手術で抜去します。傷は横のため正面からほとんど目立ちません。

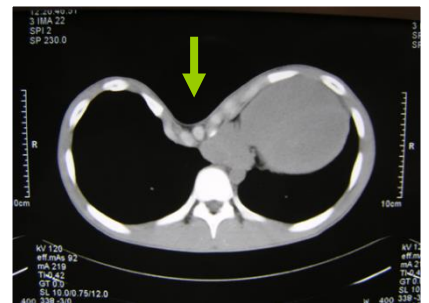
* この手術は保険適応になります。



陥凹した胸骨の裏に、あらかじめ体格にあわせて曲げておいたチタン製のバーを通しそれを回転させます。そのバーは約2~3年間留置し抜去します。



胸骨が陥凹し、心臓が左に移動しています。これが心機能に問題が出ることもあります。



手術後



傷は正面からは見えにくい場所になります。

* 麻酔

手術は全身麻酔で行ないます。また、手術の際に術後の痛みを和らげる硬膜外麻酔というものを併用します。これは脊髄の近くに細いチューブを留置し、術後数日間痛み止めの薬を流すというものです。これによって術後の痛みはかなり軽減されます。麻酔についての詳しい説明は麻酔の専門医が行ないます。

* 手術の合併症

無気肺・・・全身麻酔で手術を行ないます。また術後には多少痛みもあります。そのため痰が気管に溜まり、肺に空気が入りにくくなることがあります。ほとんどの場合はしっかり咳をして痰が出せれば改善します。

気胸・・・手術の時には、胸腔(肺の外側)にわざと空気を入れて操作を行ないます。その空気が術後に残った状態を言います。軽度であれば何もしません。自然に治ります。

胸水・血胸・・・手術のあと胸腔に液体や血液がたまる事がごく稀ですがあります。少量であれば自然に吸収されますが、量が多いときは穿刺して抜くことがあります。

感染・・・挿入した金属バーに感染(ばい菌が繁殖する)を起こす可能性がわずかながらあります。もし感染したときは抗生物質などで対応しますが、改善されないときは予定より早くバーを抜去する必要があります。

バーのずれ・・・挿入したバーは肋骨に固定します。しかし、大きな力が加わればバーがずれることもあります。ですからバー挿入の期間は運動の制限があります。

他臓器損傷・・・漏斗胸では胸骨の変形のため、心臓・肺が偏位していることがあります。そのため胸腔鏡で確認しながら安全に手術を行ないます。

* 手術後の運動制限

手術後はバーのずれを予防する意味で、相撲・空手・柔道などの格闘技・スキーなどの激しい接触が予想されるスポーツは控えてください。走ったり、跳んだり、水泳といった普通の運動は構いません。体育の授業に関しては内容によっては避けたほうがいいこともありますので主治医に確認してください。

抜去した後は制限はありません。

* 手術以外の治療法

胸の陥凹した部分を吸引することで治療する方法があります。毎日一定時間行います。時間はかかりますが、改善したという報告もあります。これらの治療をご希望されれば行うことも可能です。

胸の変形でお困りの時はご相談ください